



メソポタミア考古学教育研究所 ニューズレター

7号

2025年5月

目次

報告 1	第 7 回通常総会 (2024 年 7 月 28 日)	2
報告 2-1	遺跡マッピング 第 2 回ワークショップ (2024 年 8 月 7 日)	4
報告 2-2	遺跡マッピング 第 3 回ワークショップ (2024 年 9 月 18 日)	6
報告 3	2024 年度第 1 回勉強会 (2025 年 1 月 17 日)	12
	「テレビディレクターのメソポタミア取材記」	
新企画	会員参加記 バーレーンの歴史と文化 (2025 年 4 月 20 日)	27



*JAPANESE-IRAQI INSTITUTE FOR
ARCHAEOLOGICAL EDUCATION OF MESOPOTAMIA*

報告 1

第 7 回通常総会

日 時 2024 年 7 月 28 日 (日) 15:00 ~ 16:00

会 場 藤沢市市民活動推進センター 会議室 A

出席者 対面 3 名 + 委任状 19 名 + 書面評決 1 名 = 計 23 名

(開催時の正会員総数 31 名のため、総会は定款に則り正式に成立)

開会挨拶

小泉龍人代表理事より、総会当日 12 時時点で 2024 年度の会費納入を終えている正会員の総数 31 名のうち、Google フォーム・ハガキによる参加申込者 19 名、書面評決 1 名、会場出席者 3 名、計 23 名、過半数を越えているため総会が成立することが宣言された。

議長団選出・代表挨拶

議長に副代表の榊原智之理事、書記に山崎育子会員が指名され、承認された。小泉代表理事より、平素からの活動へのご協力に対する謝意と共に、新型コロナウイルス第 11 波の拡大によるご心労及び感染された方々へのお見舞いと感染拡大防止の観点から、第 7 回総会を藤沢市市民活動推進センターで開催するにあたり、来場を自粛するようお願いしたとの経緯説明があった。また、本年度の方針としては正会員の方々の各事業の運営や企画、事務局補助、各自の知見を活かした各種事業の企画、国際協力に基づく他機関との連携、組織運営への助言など、無理のない範囲で何らかの役割を担っていただければ大変心強い。また活動への賛同を前提として、賛助会員の皆様には資金面等で後方支援を期待する、とのご挨拶があった。

議題

・第 1 号議案：2023 年度事業報告

当年度は活動 6 年目に入り、過去 5 年間の活動成果を踏まえ、引き続き活動内容の質的及び量的な改善を図ること、設立時に掲げた中長期的な現地調査プロジェクト (APSU) の実現を見据えた活動基盤の強化に取り組むこと、昨年度、現地

状況等により代表のイラク渡航は実現しなかったが、引き続きイラク関係機関との協働に努めて行くこと、等を勘案して活動に取り組むこととした。新規事業としては、イラク国内の社会調査、メソポタミアの遺跡マッピングプロジェクト (京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科との共同作業) が開始された。学生参加型事業として、日本とイラクの若い世代が互いの文化への理解と歴史遺産の保護に貢献することを目指し、キックオフシンポジウムを 1 月に行い、ワークショップを開催、若手研究者らの育成を目的とした勉強会が継続実施された。しかし、中東情勢の影響もあり活動を延期せざるを得ない事業もあった。尚、会員数については、当年度中に正会員から賛助会員に 8 名移行したこともあり、正会員は前年度比 12 名減の 37 名、また賛助会員は前年比 8 名増の 13 名の、合わせて 50 名となった。

・第 2 号議案：2023 年度会計報告 (活動計算書)

収入総額 354,907 円、支出総額 24,500 円、これに前期繰越金 2,010,505 円を加えて、差し引き 2,340,912 円が今年度の繰越金であったことにつき、代表理事から説明があり、以上 2 件の議案が満場一致で可決された。

・監査報告

榊原康夫監事より、事業報告書、計算書類が適正であるとの報告があった。

・第 3 号議案：2024 年度事業計画

今年度は活動 7 年目に入り、引き続き活動内容の質的および量的改善を図りつつ、JIAEM 設